

ヨシュア記 3-4 章「神の民は信仰によって前進する」

3:1 ヨシュアは翌朝早く、イスラエル人全部といっしょに、シティムを出発してヨルダン川の川岸まで行き、それを渡る前に、そこに泊まった。 3:2 三日たってから、つかさたちは宿営の中を巡り、 3:3 民に命じて言った。「あなたがたは、あなたがたの神、【主】の契約の箱を見、レビ人の祭司たちが、それをかついでいるのを見たなら、あなたがたのいる所を発って、そのうしろを進まなければならない。 3:4 あなたがたと箱との間には、約二千キュビトの距離をおかななければならない。それに近づいてはならない。それは、あなたがたの行くべき道を知るためである。あなたがたは、今までこの道を通ったことがないからだ。」 3:5 ヨシュアは民に言った。「あなたがたの身をきよめなさい。あす、【主】が、あなたがたのうちで不思議を行なわれるから。」 3:6 ヨシュアは祭司たちに命じて言った。「契約の箱をかつぎ、民の先頭に立って渡りなさい。」そこで、彼らは契約の箱をかつぎ、民の先頭に立って行った。 3:7 【主】はヨシュアに仰せられた。「きょうから、わたしはイスラエル全体の見ている前で、あなたを大いなる者としよう。それは、わたしがモーセとともにいたように、あなたとともにいることを、彼らを知るためである。 3:8 あなたは契約の箱をかつぐ祭司たちに命じてこう言え。『ヨルダン川の水ぎわに来たとき、あなたがたはヨルダン川の中に立たなければならない。』」 3:9 ヨシュアはイスラエル人に言った。「ここに近づき、あなたがたの神、【主】のことばを聞きなさい。」 3:10 ヨシュアは言った。「生ける神があなたがたのうちにおられ、あなたがたの前から、カナン人、ヘテ人、ヒビ人、ペリジ人、ギルガシ人、エモリ人、エブス人を、必ず追い払われることを、次のことで知らなければならない。 3:11 見よ。全地の主の契約の箱が、あなたがたの先頭に立って、ヨルダン川を渡ろうとしている。 3:12 今、部族ごとにひとりずつ、イスラエルの部族の中から十二人を選び出しなさい。 3:13 全地の主である【主】の箱をかつぐ祭司たちの足の裏が、ヨルダン川の水の中にとどまると、ヨルダン川の水は、上から流れ下って来る水がせきとめられ、せきをなして立つようになる。」 3:14 民がヨルダン川を渡るために、天幕を発ったとき、契約の箱をかつぐ祭司たちは民の先頭にいた。 3:15 箱をかつぐ者がヨルダン川まで来て、箱をかつぐ祭司たちの足が水ぎわに浸ったとき、——ヨルダン川は刈り入れの間中、岸いっぱいにあふれるのだが—— 3:16 上から流れ下る水はつつ立って、はるかかなたのツァレタンのそばにある町アダムのところで、せきをなして立ち、アラバの海、すなわち塩の海のほうに流れ下る水は完全にせきとめられた。民はエリコに面するところを渡った。 3:17 【主】の契約の箱をかつぐ祭司たちがヨルダン川の真ん中のかわいた地にしっかりと立つうちに、イスラエル全体は、かわいた地を通り、ついに民はすべてヨルダン川を渡り終わった。 4:1 民がすべてヨルダン川を渡り終わったとき、【主】はヨシュアに告げて仰せられた。 4:2 「民の中から十二人、部族ごとにひとりずつを選び出し、 4:3 彼らに命じて言え。『ヨルダン川の真ん中で、祭司たちの足が堅く立ったその所から十二の石を取り、それを持って来て、あなたがたが今夜泊まる宿営地にそれを据えよ。』」 4:4 そこで、ヨシュアはイスラエルの人々の中から、部族ごとにひとりずつ、あらかじめ用意しておいた十二人の者を召し出した。 4:5 ヨシュアは彼らに言った。「ヨルダン川の真ん中の、あなたがたの神、【主】の箱の前に渡って行って、イスラエルの子らの部族の数に合うように、各自、石一つずつを背負って来なさい。 4:6 それがあなたがたの間で、しるしとなるためである。後になって、あなたがたの子どもたちが、『これらの石はあなたがたにとってどういうものなのですか』と聞いたなら、 4:7 あなたがたは彼らに言わなければならない。『ヨルダン川の水

は、【主】の契約の箱の前でせきとめられた。箱がヨルダン川を渡るとき、ヨルダン川の水がせきとめられた。これらの石は永久にイスラエル人の記念なのだ。』」 4:8 イスラエルの人々は、ヨシユアが命じたとおりにした。【主】がヨシユアに告げたとおり、イスラエルの子らの部族の数に合うように、ヨルダン川の真ん中から十二の石を取り、それを宿営地に運び、そこに据えた。 4:9 —ヨシユアはヨルダン川の真ん中で、契約の箱をかつぐ祭司たちの足の立っていた場所の下にあった十二の石を、立てたのである。それが今日までそこにある—— 4:10 箱をかつぐ祭司たちは、【主】がヨシユアに命じて民に告げさせたことがすべて終わるまで、ヨルダン川の真ん中に立っていた。すべてモーセがヨシユアに命じたとおりである。その間に民は急いで渡った。 4:11 民がすべて渡り終わったとき、【主】の箱が渡った。祭司たちは民の先頭に立ち、 4:12 ルベン人と、ガド人と、マナセの半部族は、モーセが彼らに告げたように、イスラエルの人々の先頭を隊を組んで進んだ。 4:13 いくさのために武装した約四万人が、エリコの草原で戦うために【主】の前を進んで行った。 4:14 その日、【主】は全イスラエルの見ている前でヨシユアを大いなる者とされたので、彼らは、モーセを恐れたように、ヨシユアをその一生の間恐れた。 4:15 【主】がヨシユアに、 4:16 「あかしの箱をかつぐ祭司たちに命じて、ヨルダン川から上がって来させよ」と仰せられたとき、 4:17 ヨシユアは祭司たちに、「ヨルダン川から上がって来なさい」と命じた。 4:18 【主】の契約の箱をかつぐ祭司たちが、ヨルダン川の真ん中から上がって来て、祭司たちの足の裏が、かわいた地に上がったとき、ヨルダン川の水はもとの所に返って、以前のように、その岸いっぱいになった。 4:19 民は第一の月の十日にヨルダン川から上がって、エリコの東の境にあるギルガルに宿営した。 4:20 ヨシユアは、彼らがヨルダン川から取って来たあの十二の石をギルガルに立てて、 4:21 イスラエルの人々に、次のように言った。「後になって、あなたがたの子どもたちがその父たちに、『これらの石はどういうものなのですか』と聞いたなら、 4:22 あなたがたは、その子どもたちにこう言って教えなければならない。『イスラエルは、このヨルダン川のかわいた土の上を渡ったのだ。』 4:23 あなたがたの神、【主】は、あなたがたが渡ってしまうまで、あなたがたの前からヨルダン川の水をからしてくださった。ちょうど、あなたがたの神、【主】が葦の海になさったのと同じである。それを、私たちが渡り終わってしまうまで、私たちの前からからしてくださったのである。 4:24 それは、地のすべての民が、【主】の御手の強いことを知り、あなたがたがいつも、あなたがたの神、【主】を恐れるためである。」

導入

先週、ラハブというひとりの女性の信仰について学びました。

彼女は、エリコに来る旅人たちから神の民について聞いていました。神の御力についても聞いていました。エジプトから 200 万人の民を救い出されたことや、葦の海を分けて、乾いた地の上を民に渡らせてくださったことも聞きました。

そして、この神の民は、唯一の全能の神に従っていると言いました。

ラハブ自身も、この神を信じ切っていることを表明しました。それは嘘いつわりのない心からの信仰でした。

ラハブは、屋根の上にふたりの斥候を隠したことで神に仕えました。

この神のために身の危険を冒し、斥候の言ったとおりに窓に赤いひもを結びつけました。

斥候たちは、ラハブが約束を守れば家の中にいる者は全員無事だろうと約束しました。このことは、エジプトでの過越しと共通点があると、先週学びました。過ぎ越しの際、神は、ユダヤ人の家の門柱と鴨居に汚れのない雄の子羊の血を振りかけるように命じられました。

死の使いがあたり一帯を通るとき、その血を見て通り過ぎ、こうしてイスラエルの家庭は安全に守られました。もし、命じられたとおりにしていなければ、死んでしまいます。「血」が神の御怒りから彼らを守ったのです。

ラハブは、言われたとおりにし、「信仰」をもって待ちました。

ヨシュア記は、個人の「信仰」から、数百万人の民全体の「信仰」へと話が展開します。

ヨシュア記が語るのは、信仰の勝利についてです。また、神の民が神を信じて従うときに神が栄光をお受けになることについてです。

ある聖書注解者は次のように語ります。「神は、私たちが銅像にして飾っておくために救われたのではない。むしろ、私たちが兵士にし、信仰によって前進してイエス・キリストにある遺産を相続させるために救われたのである。」

不信仰はこう言います。「さあ、安全なところに帰ろう。」しかし、信仰は言います。「神の働いておられるところまで進んで行こう。」

この出来事が起こる 40 年前、ヨシュアとカレブは、「私たちはぜひとも、上って行って、そこを占領しよう。必ずそれができるから。」（民数記 13 : 30）と言いました。

これは、信仰による宣言でした。一方、民は、無理だと言いました。これはエジプトから救い出してくださった全能の神に対する不信仰の表明です。

その結果、民は 40 年間もの懲らしめを受け、当時 20 歳以上だった人はひとりも約束の地を見ることができませんでした。（民数記 13 : 26-33）

1.ヨルダン川を渡る備え（1-13 節）

ヨルダン川を渡る前に、大きく分けてふたつのことが起こる必要がありました。まず、民が整えられること、そしてもうひとつは、「契約の箱」を適切な場所に据えることです。

a) 民の現実的な準備

民は、川を渡る準備期間として 3 日間与えられました。（1 : 11、3 : 2）

1 : 11 で、民は「糧食の準備をなさい。」と命じられています。彼らは、現実的な旅の準備をしなければなりませんでした。

b) 民の霊的な備え

現実的な旅の準備だけでなく、民は、靈的にも備えられる必要がありました。5節を見てみましょう。

3:5 ヨシュアは民に言った。「あなたがたの身をきよめなさい。あす、【主】が、あなたがたのうちで不思議を行なわれるから。」

神の民にとって、「身をきよめる」とはどういう意味だったのでしょうか。

答えは常にみことばの中にあります。

出エジプト記 19 章を見ると、その意味がわかります。

19:10 【主】はモーセに仰せられた。「あなたは民のところに行き、きょうとあす、彼らを聖別し、自分たちの着物を洗わせよ。

19:14 それでモーセは山から民のところへ降りて来た。そして、民を聖別し、彼らに自分たちの着物を洗わせた。

まず、民は着物を洗わなければなりません。当時、水は貴重なものでしたから、私たちが日常行う洗濯や入浴は、簡単にできることではありませんでした。

聖書では、身体を洗う行為や服を着替える行為は、神との新たな歩みの象徴です。

ダビデ王の息子が死んだとき、ダビデは体を洗って着物を着替えました。つまり、神との歩みを新たにしようとしていたのです。

創世記 35 : 1-3 で、ヤコブが神と改めて歩み始める際、彼と家族全員が身をきよめて着物を着替えました。

このイメージは、新約聖書にも引き継がれているので、今日の私たちにも当てはめることができます。

コリント第二 6 : 14-7 : 1 を読みましょう。

6:14 不信者と、つり合わぬくびきをいっしょにつけてはいけません。正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗やみとに、どんな交わりがあるでしょう。 6:15 キリストとベリアルとに、何の調和があるでしょう。信者と不信者とに、何のかかわりがあるでしょう。 6:16 神の宮と偶像とに、何の一致があるでしょう。私たちは生ける神の宮なのです。神はこう言われました。「わたしは彼らの間に住み、また歩む。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。 6:17 それゆえ、彼らの中から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。汚れたものに触れないようにせよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れ、 6:18 わたしはあなたがたの父となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる、と全能の主が言われる。」 7:1 愛する者たち。私たちはこのような約束を与えられているのですから、いっさいの靈肉の汚れから自分をきよめ、神を恐れかしこんで聖きを全うしようではありませんか。

ですから、ヨシユアは民に対して、これまでとは違う新たなスタートのために霊的な備えをするようにと命じたのです。夫婦も祈りやみことばの黙想のために性生活を控えることがあるのはこういうわけです。

c) 民は、川を渡るに際して「契約の箱」が重要であることを認識する必要がありました。

つかさたちは宿営の中をまわって、民に「契約の箱」の後ろについていきなさいと命じました。しかし、「箱」との間に二千キュビトの距離をおかなければなりません。

二千キュビトとはどれくらいでしょう。約 1km です。二百万人の人たちが劇的な出来事を目撃するのに十分な距離です。もし人々が近づきすぎると、その奇跡を見ることができなかつたでしょう。近づきすぎると道がわからなくなると、民は言われました。

これは明らかに導きについてです。神は、「箱」の後ろにどれだけの距離をおかなければならないか明確にご存知でした。

祭司たちは、「契約の箱」を担いで川の中に入り、すべてのイスラエル人が渡りきるまでそこで留まっていなければなりません。（6-8、17 節）

ですから、川を渡るにあたり、「契約の箱」が非常に重要であったことは明らかです。念のため、その重要性をここで説明しましょう。

神がご自身の民をエジプトの奴隷生活から救い出されたとき、民に幕屋を建てるように命じられました。（出エジプト 25-30 章）

これは、神が民の間に住まわれるための場所です。

神は、ご自身の住む場所が欲しくて命じられたものではありません。民の目に見えるものを与えるためでした。

出エジプト 25 : 9 「25:9 幕屋の型と幕屋のすべての用具の型とを、わたしがあなたに示すのと全く同じように作らなければならない。」

縦 46 メートル横 23 メートルの囲いで覆われた場所の中に、民の罪を覆うためのいけにえとして動物をささげる庭がありました。

そこには、動物のいけにえを置く青銅の祭壇ときよめの儀式に使う洗盤がありました。

囲いの内部の奥には、大きなテントがあり、テントの内部はふたつに分かれていました。

手前は「聖所」、奥は「至聖所」と呼ばれます。「至聖所」は、神のご臨在が象徴的に人間とともに住まわれる場所です。大祭司が年に一度入る以外には、誰もその中に入ることは許されません。

そこにあるのは、契約の箱と贖いのふたのみです。

契約の箱は、木製の小さな箱で全体に金箔が施されていました。箱の中には、十戒を記した石板が納められていました。十戒とは、シナイ山で神ご自身から与えられた生きる上で守るべき掟です。

（出エジプト 20 章）他に、マナの入った壺がありました。マナは、荒野で神が民のために毎日与えてくださった食物です。

契約の箱にはふたがありました。この金のふたには、羽をひろげたふたりの天使が彫られています。

神は、贖いのふたの上で大祭司と会い、選びの民に語られると約束なさいました。

ですから、「契約の箱」は神ご自身を現していたのです。

このことを民は改めて認識する必要がありました。奇跡の業をなしてくださるのは神ご自身なのです。（10節）

d) 民は、新しい指導者に従う必要がありました。（7節）

神は、新しい指導者に民が従うよう備えておられました。どんなクリスチャン団体や教会でも指導者の交代は重大な事ですが、数百万人の教会員がいる教会の一番の指導者が変わるとなれば大ごとです。神がモーセと共におられたようにヨシュアとも共におられることを、神は民に知らせようとなさいました。モーセは民が葦の海を渡るのを導きました。そして今、ヨシュアはヨルダン川を渡る民を導こうとしています。これらの出来事は、大きな奇跡です。神の御手がなければならぬ出来事です。

2.ヨルダン川を渡る（14-17節）

15節は、当時ヨルダン川は満水で岸いっぱいにあふれていたと語ります。神は、ご自身の奇跡を行うために、川を渡るのが一番困難な時期を選ばれました。

祭司が前方 1km のところを「契約の箱」を担いで進む中、全員が信仰によって出発しました。祭司たちの足が水に浸ると、川の流れが止まりました。水は 30km ほど離れたアダムという町の辺りでせき止められていました。200 万人の群衆が川を渡るには、それだけのスペースが必要だったのです。

こうして、民は対岸のエリコへと川を渡りました。

エリコの城壁の上でこの光景を見たらどうでしょう。エリコの人々は恐れをなしたに違いありません。

17節は、民が全員乾いた地を渡り切ったと語ります。

神の奇跡の証—記念の石（4：1-24）

4章を読み進めると、この章は神のすばらしさを覚えることについてだとわかります。神はヨシュアに語られ、箱を担いだ祭司たちが立っているヨルダン川の真ん中から 12 個の石を取るよう命じられました。

イスラエルの 12 部族それぞれからひとりずつ代表がヨルダン川から石を取り、これを記念に持ち帰ります。

4:7 あなたがたは彼らに言わなければならない。『ヨルダン川の水は、【主】の契約の箱の前でせきとめられた。箱がヨルダン川を渡るとき、ヨルダン川の水がせきとめられた。これらの石は永久にイスラエル人の記念なのだ。』」

4:19 民は第一の月の十日にヨルダン川から上がって、エリコの東の境にあるギルガルに宿営した。

4:20 ヨシュアは、彼らがヨルダン川から取って来たあの十二の石をギルガルに立てて、 4:21 イスラエルの人々に、次のように言った。「後になって、あなたがたの子どもたちがその父たちに、『これらの石はどのようなものなのですか』と聞いたなら、 4:22 あなたがたは、その子どもたちにこう

言って教えなければならない。『イスラエルは、このヨルダン川のかわいた土の上を渡ったのだ。』

4:23 あなたがたの神、【主】は、あなたがたが渡ってしまうまで、あなたがたの前からヨルダン川の水をからしてくださった。ちょうど、あなたがたの神、【主】が葦の海になさったのと同じであ

る。それを、私たちが渡り終わってしまうまで、私たちの前からからしてくださったのである。 4:24
それは、地のすべての民が、【主】の御手の強いことを知り、あなたがたがいつも、あなたがたの
神、【主】を恐れるためである。」

将来、ギルガル国立公園を散歩するおじいさんと孫の会話があるかもしれません。孫が、「おじい
ちゃん、あそこに積んである石は何？」

すると、おじいさんはそこで起こったすばらしい出来事について話してあげることができます。こ
うして、次の世代へと語り継ぐのです。

また、この出来事がいつ起こったかにも注目しましょう。 4 : 19 をご覧ください。

それは第一の月の 10 日でした。では、出エジプト記 12 : 2-3 を読みましょう。

出エジプト 12 : 2-3

12:2 「この月をあなたがたの月の始まりとし、これをあなたがたの年の最初の月とせよ。 12:3 イ
スラエルの全会衆に告げて言え。この月の十日に、おのおのその父祖の家ごとに、羊一頭を、すな
わち、家族ごとに羊一頭を用意しなさい。

なんということでしょう。神がイスラエルの民に葦の海を渡らせてエジプトから救い出されたのと
まったく同じ日です。

出エジプトは、民の奴隷生活からの解放を意味しました。

その同じ月の同じ日に、神は約束の地へ到着させてくださいました。

神が語られるとき、それを明らかにしてくださいます。だからこそ、同じ日を選ばれたのです。

適用

約束の地へとヨルダン川を渡る備え- 神に選ばれたイスラエルの民は、約束の地に入るところでし
た。

神は、きよめをとおして霊的に整えられなさいと民に命じられました。

私たちも、弟子として歩むクリスチャン人生で勝利を得たいなら、きよめの過程を通る覚悟が必要
です。自分を捨て、十字架を負って、イエスについていく意志がなくてはなりません。

ルカ 9:23-26

9:23 イエスは、みなの方に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、
日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。 9:24 自分のいのちを救おうと思う者
は、それを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを救うのです。 9:25 人は、たと
い全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の得がありましょう。 9:26 もしだれで
も、わたしとわたしのことばとを恥と思うなら、人の子も、自分と父と聖なる御使いとの栄光を帯
びて来るときには、そのような人のことを恥とします。

信徒一人ひとりのきよめの必要性を真摯に受け止め、私たちの人生で神がご自身の方法でみこころ
をなされるように明け渡す必要があります。完全にイエスについていくことを邪魔するものは取り
除く覚悟が要ります。

神社でお参りをしたり、文化や習慣で神に栄光をもたらさないものを持続したりしていないでしょうか。

川を渡る- 神の子である民は、信仰をもって前進しなければなりません。神のご計画であることを根拠に、彼らは確信をもって前に進みました。私たちのすべてを神にゆだねるのはすばらしいことです。神が舵を握ってくださり、私たちは神のしもべになります。神が望まれるところに行き、神がすべての必要を必要な時に満たしてくださるのです。

神を信じる「信仰」によって歩んできた 30 年を私は皆さんに証できます。困難な状況でも信仰によって大胆に前進できたのは、神に人生のすべてをお任せしたからです。これは、私たち全員がすべきことです。

アリスティア・マッケナだけでなく、**OIC** の全員がすべきことです。

皆さんは、そうしようと思いませんか。今日がその日ではありませんか。

記念の石- 信仰の最大の敵は、「忘れっぽいこと」です。石は、目に見えるかたちで、神がしてくださったことを民に思い起こさせるものでした。

私たち **OIC** は、イエスの死を覚えます。それは、神が人類に施してくださった偉大な愛を忘れないためです。

皆さんのこれまでの人生で、神がすばらしいかたちで働いてくださったことがあるでしょうか。それを書き留めておくと、きっと役に立ちます。過去のできごとを思い出すことで、これからもイエスに従っていこう、確信をもって前に進んでいこうという励みになります。

祈りましょう。